

平成 29 年度 京都府立宮津高等学校伊根分校 学校経営計画 (実施段階)

平成 30 年 3 月

学校経営方針 (中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
<p>智力、人間性、体力が調和した生徒の育成をめざす。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生徒一人一人が安心して楽しく過ごせるクラス・学校作りを行う。 2 すべての生徒に基礎学力を定着させるため、授業のユニバーサルデザイン化を推進する。 3 関係専門機関との連携を強化し、多様な生徒に応じた支援を行う。 4 生徒一人一人の能力・適性を把握し、系統的な進路指導を行い希望進路の実現を図る。 5 人間的な触れあいを密にしたきめ細かな指導により、心豊かな人間性を育てる。 	<p>【成果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生徒及び保護者による学校評価アンケートによれば学校生活に対して 81.5%が肯定的であり満足度が高い。 2 教育支援会議を充実させることができた。また、スクールカウンセラーとの情報共有・共通理解が適切に行われ、課題のある生徒に対して迅速に対応する事ができた。 3 アルバイトを積極的に奨励したり、勤労体験学習に取り組みせることなどにより社会性を向上させることができ、また、事業所の方から評価されることで生徒の自己有用感が高まった。 <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 わかる授業を目指すため、ICT を積極的に活用し一定の効果は得られたものの学力が向上したとは認められない。一層の改善が必要である。 2 アクティブラーニングの積極的な導入など、生徒の状況に応じた新しい教育手法を開発する必要がある。 3 保護者や関係専門機関との連携をさらに深め生徒の自立支援を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業規律の確保とともに主体的に取り組む生徒を増やすためのさらなる工夫を行い、知的好奇心を高める授業を展開する。 2 授業がわかる楽しさを感じさせると共に、意欲が高まる学習活動の評価方法を研究する。 3 基礎学力を身につけるさせるために振り返り学習を充実させる。また、授業のユニバーサルデザイン化を推進する。 4 担任面談や生徒部長面談及び教科担任による面談などを充実させ、多面的な視点での生徒状況把握に努める。 5 SST や学校行事などを通してソーシャルスキルを向上させるような取組をさらに推進する。 6 面談を充実させ生徒状況把握に努める。さらに、個に応じた進路指導を充実させると共に必要に応じて外部機関と連携した個別相談を実施する。 7 部活動を充実させるため、教員から積極的な関わりを持ち、働きかけを行う。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題								
組織・運営	生徒及び保護者からの信頼を得るために教育活動を充実させる。	<p>学校全体の教育活動を充実させるため、わかる授業を展開するための工夫や学校行事を充実させる。また、多くの体験学習に取り組ませることで地域理解を深めるとともに社会性を向上させる。</p> <p>[学校評価アンケートの全項目に対する満足度]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～80%</td> <td>79～70%</td> <td>69%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～80%	79～70%	69%以下	B	<p>・生徒及び保護者による学校評価アンケートにおける全項目に対する A+B の割合は 80.9% であった。生徒の回答で A+B の割合は、「教員が熱心でよく面倒を見てくれている」が 87.1% と高評価である一方で「学校生活が充実していて楽しい」は 74.2% とやや低かった。この項目は学年による評価のばらつきが大きく、クラスの生徒人数や男女比の差などが評価に影響したと思われる。</p> <p>・特別支援会議及び教職員研修会は特別支援会議 11 回、研修会 3 回の計 14 回実施した。生徒状況を細かく情報共有することで教員間の連携が図れ効果的な指</p>
	A	B	C	D								
	90%以上	89～80%	79～70%	69%以下								
生徒の状況を正確に把握し、教職員全体に共通理解を図りながらベクトルを揃えた対応をする。	<p>特別支援教育を充実させるための支援会議や教職員研修を充実させる。</p> <p>[教育支援会議及び教職員研修の実施回数]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>15 回以上</td> <td>14～11 回</td> <td>10～7 回</td> <td>6 回以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	15 回以上	14～11 回	10～7 回	6 回以下	B		
A	B	C	D									
15 回以上	14～11 回	10～7 回	6 回以下									
保護者及び専門機関との連携を強化する。	<p>家庭連絡や家庭訪問を積極的に行い、保護者との連携を強化する。また、ハローワークや市役所の福祉課などと連携を深め、個々の対応を適切かつ迅速にする。</p> <p>[保護者による学校評価アンケートの家庭との連携]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>86%以上</td> <td>85～81%</td> <td>80～73%</td> <td>72%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	86%以上	85～81%	80～73%	72%以下	C		
A	B	C	D									
86%以上	85～81%	80～73%	72%以下									

				導に繋がっていると思われる。 ・保護者による学校評価アンケートの家庭との連絡の A+B の割合は 77.8%であった。担任による家庭訪問や学級便りを昨年以上に発行し連携を深める努力はしたが、まだ十分であるとはいえない。								
教務部	わかる授業を展開する。	わかる授業を展開するための工夫を積極的に行う。特にユニバーサルデザイン、インクルーシブ教育システム、ICT 教育などを意識した授業展開を目指す。 [教務部独自アンケートで（わりやすい授業であると回答した生徒数）] <table border="1" data-bbox="929 901 1590 997"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>25人以上</td> <td>24～20</td> <td>19～15</td> <td>14人以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	25人以上	24～20	19～15	14人以下	D	<ul style="list-style-type: none"> わかる授業展開の項目について、教務部独自のアンケート結果の評価は全体では D であった。一部の教科においては ICT を活用した授業を積極的に導入することで高評価を得たが、従来型の授業の中にユニバーサルデザインを導入しただけでは高評価に繋がらなかった。今後の参考としたい。 個別指導の充実についてアンケート結果の
	A	B	C	D								
	25人以上	24～20	19～15	14人以下								
個別指導を充実させる。	放課後の時間を利用して、個別指導を積極的に行う。 [教務部独自アンケートで（年間 50 回以上個別指導した生徒数）] <table border="1" data-bbox="929 1173 1590 1268"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>25人以上</td> <td>24～20</td> <td>19～15</td> <td>14人以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	25人以上	24～20	19～15	14人以下	B		
A	B	C	D									
25人以上	24～20	19～15	14人以下									
探究学習を取り入れ、基礎学力講	基礎学力講座に探究学習を取り入れる事により生徒が主		B									

	座を充実させる。	<p>体的に物事を考える力を伸ばす。また、他者と意見交換する事により物事をより深く理解する力を身に付けさせる。</p> <p>[教務部独自アンケートで（理解力が向上したと実感できた生徒の割合）]</p> <table border="1" data-bbox="931 312 1588 426"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>95%以上</td> <td>94～85</td> <td>84～75</td> <td>74%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	95%以上	94～85	84～75	74%以下	B	<p>評価は B あった。対応できる人数に限りがあるため、全ての要望に対応できないが、一定の効果は得られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに導入した探究学習については高評価を得た。深い学びに繋がる第一歩を踏み出せたと考えられる。また、基礎学力講座については内容を刷新したが、高評価には繋がらなかった。基礎学力向上の取組については次年度再考の必要性を感じる結果となった。
A	B	C	D									
95%以上	94～85	84～75	74%以下									
生徒指導部	<p>規律ある社会人としての自立を目指し社会性を身につけさせる。</p>	<p>校則をきちんと理解させ、守らせるだけでなく、社会人として守るべきマナーについても考えさせ、遵守させる。</p> <p>[学校評価アンケートの公衆道徳の項目における A+B の割合]</p> <table border="1" data-bbox="938 1131 1581 1222"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%以上</td> <td>79～70</td> <td>69～60</td> <td>59%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	80%以上	79～70	69～60	59%以下	A	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識は A+B の割合が 87%と高評価であった。スマホ等の扱いについても多くの生徒がきちんと理解し、年度途中で変更したにも関わらずスマホの新しい規則を守っている。しかし、A の割合だけを見ると 23 %と生徒自
A	B	C	D									
80%以上	79～70	69～60	59%以下									
	<p>生徒会活動やクラブ活動などの自主活動を充実させる。</p>	<p>生徒会活動やクラブ活動の活性化を促し、生徒たちの参加意欲と満足度をともに高めることを目指す。</p> <p>[学校評価アンケートの部活動の満足度の項目における</p>										

		<p>A+B の割合]</p> <table border="1" data-bbox="940 172 1581 287"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%以上</td> <td>79 ~ 70</td> <td>69 ~ 60</td> <td>59%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	80%以上	79 ~ 70	69 ~ 60	59%以下	C	<p>B 身も緩みを感じている様子がうかがえる。意識を向上させるような指導が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動については A+B の割合が 61 % であり、部活動の時間延長を望んでいる生徒もいるが、帰りのバスの時間のこともあり、時間の確保が難しいという面は否めない。有効な方法はないか今後も検討していきたい。 ・生徒会役員については、責任をもってその役割を果たそうと頑張っていた。
A	B	C	D									
80%以上	79 ~ 70	69 ~ 60	59%以下									
進路指導部	<p>生徒の進路意識を高め、社会性や職業観の育成、自己理解を促し、希望進路の実現に向けて指導及び支援を行う。</p>	<p>アルバイトやインターンシップを積極的に促し、生徒の勤労観を高めるとともに社会性を育む。</p> <p>[長期アルバイトに取り組んでいる生徒の割合]</p> <table border="1" data-bbox="931 1129 1590 1222"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90%以上</td> <td>89 ~ 75</td> <td>74 ~ 60</td> <td>59%以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>希望進路の実現に向けて、個人面談の充実と三者間（教員・保護者・関係専門機関）の連携を密に図る。</p> <p>[学校評価アンケート（進路指導の満足度）における A+B の割合]</p>	A	B	C	D	90%以上	89 ~ 75	74 ~ 60	59%以下	C	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の勤務状況等の把握及び個々への求人情報の提供により、長期アルバイトに取り組んでいる生徒の割合は、66.7%（18/27人）と昨年度 50.0%（14/28人）より高めることができた。 ・保護者の進路指導に
A	B	C	D									
90%以上	89 ~ 75	74 ~ 60	59%以下									

		<table border="1"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>90%以上</td><td>89～80</td><td>79～70</td><td>69%以下</td></tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～80	79～70	69%以下		
A	B	C	D									
90%以上	89～80	79～70	69%以下									
		<p>全員の希望進路実現を目指す。 [希望進路が実現した人数（4年生）]</p> <table border="1"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>100%</td><td>99～95</td><td>94～90</td><td>89%以下</td></tr> </table>	A	B	C	D	100%	99～95	94～90	89%以下	A	<p>対する満足度は、A+Bの割合が 77.8%（21/27人）であった。今後も生徒及び保護者に寄り添った丁寧な指導を心掛けたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年生の希望進路の実現については、本人及び保護者の意向に沿った進路を実現させることができた。
A	B	C	D									
100%	99～95	94～90	89%以下									
保健部	<p>健康安全に関する啓発活動を年間を通じて行う。 ライフスタイル指導を継続し、基本的な生活習慣の確立を目指す。</p>	<p>保健だよりの発行により、年間を通じて身近な健康問題の啓発を行う。 [保健だよりの発行回数]</p> <table border="1"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>20回以上</td><td>19～16</td><td>15～11</td><td>10回以下</td></tr> </table>	A	B	C	D	20回以上	19～16	15～11	10回以下	C	<ul style="list-style-type: none"> ・保健だより発行回数は14回であった。食育やインフルエンザなどの問題をタイムリーに啓発を促した。 ・歯科検診の再受診率は20%以下の状況である。保健委員会などで意識して啓発を促したが意識が向上させられなかった。
	A	B	C	D								
20回以上	19～16	15～11	10回以下									
	<p>歯科検診における再受診率を向上させる。</p>	<p>[歯科検診における再受診率]</p> <table border="1"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>80%</td><td>79～50</td><td>49～30</td><td>29%以下</td></tr> </table>	A	B	C	D	80%	79～50	49～30	29%以下	D	
A	B	C	D									
80%	79～50	49～30	29%以下									
第1学年	<p>基礎学力の定着を図り、学習意欲を向上させる。また、学習面以外でも、部活動や学校行事に積極的に取り組ませる。</p>	<p>授業に積極的に参加させ、基礎学力の積み上げをさせる。また、部活動や学校行事に積極的に参加するよう指導する。 [学校評価アンケートの項目1～4の項目におけるA+B]</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・授業には全員が積極的に参加することが出来、確実に基礎学力が積み上げられたと思わ 								

		の割合]		D	れる。 ・学校行事に関しては生徒によって参加意欲の差が出てしまった。次年度への課題である。								
			<table border="1"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>85%以上</td> <td>84～75</td> <td>74～65</td> <td>64%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	85%以上	84～75	74～65	64%以下		
A	B	C	D										
85%以上	84～75	74～65	64%以下										
第2学年	面談を充実させることにより、生徒達の学習規律や生活規律を守ることの大切さを理解させる。	規律の徹底を図るため SHR や面談を多く実施する。 [年間の面談回数]	<table border="1"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>7回以上</td> <td>6回</td> <td>5回</td> <td>4回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	7回以上	6回	5回	4回以下	A	・学期始めや学期末を中心に、1人当たり約9回の面談を行った。学校評価アンケート 1～4の項目における A+B の割合は 81.4 % であった。
	A	B	C	D									
7回以上	6回	5回	4回以下										
主体的に学校生活を送り、様々な行事を通して成長する実感を持たせる。	クラス内や行事などでの役割を明確にし、達成感を持たせる。 [学校評価アンケートの項目 1～4の項目における A+B の割合]	<table border="1"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>91%以上</td> <td>90～81</td> <td>80～71</td> <td>70%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	91%以上	90～81	80～71	70%以下	B		
A	B	C	D										
91%以上	90～81	80～71	70%以下										
第3学年	学生の本分である学業に集中し、自己を成長させる姿勢を身に付けさせる。	日常の授業規律の確保及び、ものごとに取り組む際の姿勢を意識させ、定期考査の結果向上に繋げる。 [全5回の定期考査クラス内全教科平均点]	<table border="1"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>60点以上</td> <td>59～50</td> <td>49～40</td> <td>39点以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	60点以上	59～50	49～40	39点以下	C	・2学期期末考査までの全科目の平均点は49.5点であった。定期考査に対する意識付けはある程度行えたのではないかと考えられる。 ・短期を含め、今年度アルバイトに取り組むことができた人数の割合は90.1%であった。
	A	B	C	D									
60点以上	59～50	49～40	39点以下										
卒業後の進路についての考えを深めさせ、自己の将来に向けて行動を始めさせる。	アルバイトに従事することで、勤労に対する意識を高め、自立するために必要な力を身に付けさせる。 [長期アルバイト・短期アルバイトができた人数の割合]		A										

A	B	C	D
90%以上	89～75	74～60	59%以下

第4学年	卒業後、社会人として自立する必要性を理解させるとともに、希望進路の実現を図る。	希望進路の実現に向けて、個人面談の充実と三者間（教職員・保護者・関係専門機関）との連携を深める。 [希望進路の実現人数] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>100%</td> <td>99～95</td> <td>94～90</td> <td>89%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	100%	99～95	94～90	89%以下	A	B	・4年生学校評価アンケートでは学校に対する満足度の項目1～4におけるA+Bの割合は100%であった。生徒のアンケート結果は、学校生活全般において、大きな安心感と高い満足度を示している。
	A	B	C	D									
100%	99～95	94～90	89%以下										
生徒が社会について理解を深化させるとともに自己表現力を養う。	生徒が社会について考えを深め、話せる力を養う。LHRやSHRの内容を充実させ、生徒の学校生活への満足度を向上させる。 [学校評価アンケートの項目1～4の項目におけるA+Bの割合] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>100%</td> <td>99～90</td> <td>89～80</td> <td>79%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	100%	99～90	89～80	79%以下	B			
A	B	C	D										
100%	99～90	89～80	79%以下										
国語科	定期的な学習の習慣づけを行い漢字や語句の力を身に付けさせる。	授業内で配布した練習プリントの提出を習慣づけ、基本的な知識の向上を図る。 [小テストの平均得点率] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～80</td> <td>79～70</td> <td>69%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～80	79～70	69%以下	D	C	・実施した小テストの平均得点率が66%であった。生徒による授業アンケートの全項目のA+Bの割合は97%であり、高評価を得た。
	A	B	C	D									
90%以上	89～80	79～70	69%以下										
社会に出た時に必要な国語力を身に付けさせるため、分かりやすい授業を展開する。	家庭学習を充実させ、積極的に授業に参加させる。 [生徒による授業アンケートにおける全項目のA+Bの割合] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>95%以上</td> <td>94～90</td> <td>89～80</td> <td>79%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	95%以上	94～90	89～80	79%以下	A			
A	B	C	D										
95%以上	94～90	89～80	79%以下										
地歴・公民科	主体的に社会に参画する態度を	指導と評価の一体化を意識し、繰り返し学習させることで、				・2学期期末考査まで							

	<p>養うために、社会の諸事象についての確実な知識の定着を目指す。</p>	<p>知識の定着を目指す。 [年間5回の定期考査平均点]</p> <table border="1" data-bbox="931 220 1588 312"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>70点以上</td> <td>69～60</td> <td>59～50</td> <td>49点以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	70点以上	69～60	59～50	49点以下	C	<p>の定期考査の平均点は52.2点であった。考査を意識する生徒が増加している。</p> <p>・授業アンケートにおける全項目のAの割合は60.1%であった。課題提出や締め切り日の厳守について生徒によるアンケートでC及びD評価があったことが、次年度の課題である。</p>
A	B	C	D									
70点以上	69～60	59～50	49点以下									
	<p>日常生活や社会で起こっていることを理解する土台となるように、生徒の実態に合わせた授業を展開し、社会に関心を持たせる。</p>	<p>視聴覚教材や図を用いて、授業内容理解の補助としていくことで、生徒の興味・関心を高める。</p> <p>[生徒による授業アンケートにおける全項目のAの割合]</p> <table border="1" data-bbox="931 539 1588 651"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～80</td> <td>79～60</td> <td>59%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～80	79～60	59%以下	C	
A	B	C	D									
90%以上	89～80	79～60	59%以下									
数学科	<p>生徒個々の学力・能力を把握・分析し個々の実態に合わせ授業を展開し、興味・意欲・達成感を持たせる。</p>	<p>生徒に基礎学力を定着させる為、授業のユニバーサルデザイン化を推進し、授業の充実を図る。</p> <p>[生徒による授業アンケートにおける全項目のA+Bの割合]</p> <table border="1" data-bbox="931 951 1588 1062"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～80</td> <td>79～60</td> <td>59%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～80	79～60	59%以下	B	<p>・生徒によるアンケートでは、全項目のA+Bの割合が80%以上であり、また、質問項目の半分が90%以上であった。個に応じた丁寧な生徒対応の更なる工夫が必要である。</p>
A	B	C	D									
90%以上	89～80	79～60	59%以下									
理科	<p>自然の物事・現象に対する興味や関心を喚起し、科学を学ぶ意義や楽しさを実感させ、生活に係わる理科の実用性について理解を深めさせる。</p>	<p>科学に対する意欲・関心を図るため、授業の理解度を小テストで確認する。</p> <p>[生徒による授業アンケートにおける全項目のA+Bの割合]</p> <table border="1" data-bbox="931 1361 1588 1409"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>	A	B	C	D	B	<p>・生徒によるアンケートでは全項目のA+Bの割合が83%であり、意欲的に学習に取り組んでいる。一方C評価も</p>				
A	B	C	D									

		<table border="1"> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～80</td> <td>79～60</td> <td>59%以下</td> </tr> </table>	90%以上	89～80	79～60	59%以下						
90%以上	89～80	79～60	59%以下									
	<p>目的意識をもって観察、実験等を行い科学的探究心を養う。</p>	<p>生徒が自ら考え、主体的に実験・観察に取り組み、科学に対する見方や考え方表現する。</p> <p>[レポート等の提出を求める授業の実施回数の平均]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>15回以上</td> <td>14～10</td> <td>9～5</td> <td>4回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	15回以上	14～10	9～5	4回以下	C	<p>B</p> <p>あった。これは板書に対する要望であり、これを踏まえて指導技術の工夫・向上が必要であると考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習や視聴覚教材を活用はしたが、その回数は少ない。実験も含め授業の展開にあわせ計画的に実施できるように努めたい。
A	B	C	D									
15回以上	14～10	9～5	4回以下									
保健体育科	<p>様々な運動・スポーツを通じて体力を向上させ、生涯を通じて運動・スポーツを続けようとする意欲を向上させる。</p>	<p>身体を動かすことの楽しさを味わわせることを通して「体力の向上」「スポーツマンシップの向上」を図り、心技体ともに成長させる。</p> <p>[保健体育科の独自年度末アンケートの運動の大切さがわかったという項 A+B の割合]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>79～70</td> <td>69～60</td> <td>59%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	79～70	69～60	59%以下	A	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの結果は体育・保健ともに A+B の割合が 80%以上であった。 ・体育に関しては種目等での差はあるものの概ね全員が意欲的に取り組めた。
A	B	C	D									
80%以上	79～70	69～60	59%以下									
	<p>自らの健康状態を把握し、継続的に管理していく意識を向上させる。</p>	<p>基本的な生活習慣の大切さを学び、将来においても実践していけるように授業を行う。</p> <p>[生徒による授業アンケートにおける全項目の A+B の割合]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>79～70%</td> <td>69～60%</td> <td>59%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	79～70%	69～60%	59%以下	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保健に関しては理解力の差が大きく、全ての生徒に理解できるように教材を研究したい。今後の課題として捉えている。
A	B	C	D									
80%以上	79～70%	69～60%	59%以下									
芸術	<p>授業を通して、芸術を愛好する</p>	<p>鑑賞と表現の調和のとれた充実を図り、授業における満足</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒によるアンケート 								

	<p>心情を育て、感性と表現力を高める。</p>	<p>度を上げる。また、芸術の魅力に気づかせる授業展開を心掛ける。</p> <p>[生徒による授業アンケートにおける全項目の A+B の割合]</p> <table border="1" data-bbox="931 312 1588 403"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>96%以上</td> <td>95～86%</td> <td>85～76%</td> <td>75%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	96%以上	95～86%	85～76%	75%以下	B	<p>トの全項目の A+B の割合は、音美書全体で 92.6%と高評価であった。音楽では感情豊かに表現する姿が多く見られ、美術、書道では難度の高い作品制作に意欲的に取り組み、感性を高めることができた。どの生徒も意欲的に取り組んでいた。</p>
A	B	C	D									
96%以上	95～86%	85～76%	75%以下									
英語科	<p>英語学習の意義を理解し前向きに取り組む態度を育て、各学年で「～ができる」事柄を増やして学習の定着を図る。</p>	<p>わかる授業の工夫に努め、生徒の理解度を確認しながらコミュニケーション力を育て、授業の満足度を高める。</p> <p>[生徒による授業アンケートにおける項目 1～6 における A+B の割合]</p> <table border="1" data-bbox="925 858 1581 949"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>96%以上</td> <td>95～85%</td> <td>84～70%</td> <td>69%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	96%以上	95～85%	84～70%	69%以下	B	<p>・生徒によるアンケートの項目 1~6 の割合は 93.3 %であった。丁寧に読みやすい板書を心がけ、分かり易い授業を行ったつもりだがさらに、生徒に寄り添う事を心がけていきたい。</p>
A	B	C	D									
96%以上	95～85%	84～70%	69%以下									
	<p>実用英語技能検定の受検を奨励し、受検者数を増やす。</p>	<p>英語検定に対応できる指導を行い、検定試験に挑戦する生徒を増やす。</p> <p>[年間英検受検者数 3 回分の実数]</p> <table border="1" data-bbox="931 1131 1588 1246"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5人以上</td> <td>4～3</td> <td>2～1</td> <td>0人</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	5人以上	4～3	2～1	0人	D	<p>・英検を受検する生徒に可能な限り支援してきたつもりであるが挑戦することの意義を伝えきれなかった。今後の課題である。</p>
A	B	C	D									
5人以上	4～3	2～1	0人									
家庭科	<p>生活に必要な知識と技術を習得させ、主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を</p>	<p>授業のユニバーサルデザイン化の推進や実習や実験等を効果的に取り入れることで、生徒の学ぶ意欲を高めるとともに基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。</p>		<p>・授業を真面目に、かつ一生懸命に取り組んでいる生徒の割合は、8</p>								

	育てる。	<p>[生徒による授業アンケート項目 9 における A+B の割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100%</td> <td>99 ~ 90 %</td> <td>89 ~ 80 %</td> <td>80 %未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	100%	99 ~ 90 %	89 ~ 80 %	80 %未満	C	7.9%であった。ただ、A 評価だけを見ると、39.4%であり、やや低いと感じる。更に意欲的に学ぶ生徒を増やすために教科指導の工夫及び改善に努めたい。
A	B	C	D									
100%	99 ~ 90 %	89 ~ 80 %	80 %未満									
情報科	<p>パソコンや情報機器を活用し、様々なソフトが活用できる能力を向上させる。</p>	<p>「社会と情報」の教科指導を通して様々なアプリケーションソフトを活用する実習を行う。ビジネス文書作成技能や表計算ソフトを活用できる力を養う。</p> <p>[生徒による授業アンケート項目 1 ~ 6 における A+B の割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100 %</td> <td>99 ~ 90</td> <td>89 ~ 80</td> <td>79 %以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	100 %	99 ~ 90	89 ~ 80	79 %以下	C	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の授業評価についてはアンケート項目 1 ~ 6 項目における A+B の割合は 88 %であった。授業における基礎、基本の見直しを図っていきたい。
	A	B	C	D								
100 %	99 ~ 90	89 ~ 80	79 %以下									
<p>情報モラルの育成やネット依存・スマホ依存などの情報社会の諸課題に対応できる力を養う。</p>	<p>インターネットによるコミュニケーションの特徴と危険性について考え、情報社会の課題や問題を理解させ、それに対する対処に関して適切な意見をまとめることができる力を養う。</p> <p>[情報社会の課題に対する作文の提出割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100 %</td> <td>99 ~ 90</td> <td>89 ~ 80</td> <td>79%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	100 %	99 ~ 90	89 ~ 80	79%以下	B	<ul style="list-style-type: none"> 情報モラルの育成やネット依存、スマホ依存などの情報社会における課題についての学習により情報社会についての作文を完成させることができた。 	
A	B	C	D									
100 %	99 ~ 90	89 ~ 80	79%以下									
商業	<p>ビジネス社会で役立つ知識や技能を身に付けさせる。</p>	<p>「情報処理」・「ビジネス基礎」の教科指導を通して、ビジネス社会で役立つ知識や技能を身に付けさせる。提出課題の厳守や基礎学習の徹底を図る。</p> <p>[生徒による授業アンケート項目 1 ~ 6 における A+B の割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D					C	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の授業評価についてはアンケート項目 1 ~ 6 項目における A+B の割合が 88 %であった。授業における基礎、基本の見直しを
A	B	C	D									

			100%	99～90	89～80	79%以下		D	図っていきたい。 ・商業に関する検定試験の受験者に対する検定合格率は56%であった。不合格者はいずれも試験当日の欠席によるものであり、検定試験に挑む姿勢や意気込みをもたせる指導の工夫・徹底が必要である。
	検定試験に挑む学力を養成する。	授業や放課後学習指導教室、部活動の指導を通してビジネス文書検定・電卓検定・情報処理検定・簿記検定などの各種検定試験に合格する力を育成する。 [年度末の商業に関する検定試験の受験者に対する検定合格率]						D	
			A	B	C	D			
			100%	99～90	89～80	79%以下			
総合的な学習の時間	総合学習を充実させ、確かな基礎学力と豊かな心を育てる。	総合的な学習（体験学習）を通して、地元伊根町の特色ある産業をより深く理解させる。 [総合的な学習アンケート（伊根町をより深く理解できたと回答した生徒の割合）]						B	・生徒による総合的な学習のアンケートにおける生徒割合は左表においてBに該当する結果であった。総合的な学習の更なる充実を目指し、体験学習を深い学びに繋げたい。
			A	B	C	D			
			90%以上	89～83	82～76	5%以下			

学校関係者評価委員会による評価	<p>全校生徒及び保護者による学校評価アンケートの結果によると、伊根分校で展開している教育活動全ての項目について80.9%の生徒及び保護者が肯定的な評価をしている。伊根分校で実施されている教育活動が良く理解され、また、信頼されている結果、高い満足度に結びついているものと考えられる。全体として、落ち着いた学校が維持できていると聞いているのもこうした環境が大きな要因であると思われる。引き続き、信頼される学校づくりをお願いしたい。</p> <p>また、体験学習や特別養護老人ホームや海岸の清掃などのボランティア活動などを通して地域から学び、地域と共に成長できる取組を積極的に実施しているとのことであった。伊根地域の特産物の播種や収穫、地元の野菜や魚を使った調理実習など、実際に体験することを通して学んだ知識はまさに「生きた知識」となる。地域を理解し、地域貢献への意識付けにも繋がると思われるので継続して取</p>
-----------------	---

り組んでもらいたい。

最近、伊根分校の教育活動が新聞に掲載されていることが多くなったと感じる。地域の方を講師に招いた講演や実習などを多く地域に発信することにより、地域の方々に生徒達の姿を見ていただき、地域に信頼され、地域と共に歩みながら益々発展する学校にしていただきたい。

次年度に向けた改善の方向性

- 1 地域を理解を深化させ、地域の持っている強みを研究すると共に地域活性化の提言ができる力を育む。
- 2 暗記中心の知識を積み上げるだけの学習ではなく、思考力を高める「考える学習」をさせることで真の学習の楽しさを生徒達に実感させる。また、探究的な学習活動を展開することで、課題解決に向けた主体的、協働的な学びを推進する。
- 3 生徒達が充実した学校生活を送れていると実感できる環境を保ち、学校行事や体験学習などを通して成長する姿が特徴となる学校を目指す。
- 4 部活動や生徒会活動を更に活発にし、生き生きとした生徒達の姿が日常的に感じられる学校にする。
- 5 希望進路の実現に向けての意識付けや内容を精査し、カリキュラム化する。単に希望進路を実現させるだけでなく、卒業後の自立への意識を高め、必要な力をつけさせる学習活動を展開する。